GPA（Grade Point Average）に関する指針

１．GPA の基準
①全学的に統一した基準にする
②公平性、透明性に優れた基準である
③国際的に通用する基準である

２．GPA 導入の目的
①科目ごとに学生の授業理解度を把握し、一定基準を下回る学生への指導及び教員の授業内容や方法の改善等を図るための資料として利用することを目的とする。

３．GPA 評価の利用方法
①成績不振者への進路・学習指導の資料として利用する。
②留年、退学（進路変更）の警告の資料として利用する。
③学生の授業理解度を把握し、今後の授業内容や方法を改善する場合の資料として利用する。
④成績優秀者の選出の参考資料として利用する。
⑤就学支援制度の認定の可否の参考資料として利用する。

４．GPA の算出方法

（グレードポイント）
100～90 点(S) →4
89～80 点(A)→3
79～70 点(B)→2
69～60 点(C)→1
59～それ以下(D)または不合格→0

$$\frac{\text{（履修科目のグレードポイント×履修科目の単位数）の総和}}{\text{履修科目（不合格科目・無資格科目を含む）の単位数の総和}}$$

５．GPA 計算基準
①GPA の計算期間は半期毎とする。
②留年生の GPA 計算は、留年前の GPA は記録として残し、留年後の最終成績をもとに GPA を計算する。

６．GPA の評価基準値
0.0~2.3 勉強不足
2.4~2.8 平均
2.9~3.4 優秀
3.5~ かなり優秀
上記を参照に、学生指導にあたること。

附則：令和 6 年 10 月 1 日から施行する